池田の池現地探索の報告

平成３１年３月１９日

去る３月１９日、勉強会の一環として久しぶりに「池田の池」の現地見学を行いました。この地の歴史を振り返って現地を歩きながら千葉の昔を考えてみたいと思います。

太古の昔、千葉市街地の大半は大きな内海となっていましたが、約７千年前から５千年前頃、縄文海進が過ぎて、海食崖が削られ内湾に砂州が出来て陸地や沼沢地が形成ました。現在の市街地東部（本町、亀井町、鶴沢町等）であり、「池田の池」と言われる地域であります。そこで、この地域の実態を少しでも理解したいと考えてこの勉強会を企画したのであります。

この池田の池は、西は砂州の出現により陸地化したものであり、南は千葉大学のある亥鼻台地、東は都小学校や延命寺のある都町台地、北は登渡、椿森台地に囲まれています。この地区に、東側から都川が流入し、低地と池が生まれて、転々と丘又は低湿地にある沼や沢となったものと考えられます。（地図を参照、点線の内側部分が池・低湿地）

この地図にある点線の内側が主題の「池田の池」と「低湿地」と言われる地域を示すものであります。

今回、集合して戴いた本町公園は元々土地が隆起していて池の一部とは考えにくい。もう少し都川の上流に進み、亀岡橋付近から都川（千葉大学亥鼻台地）に沿って東に進み、童橋の下に旧中溝川が有りますが、現在では暗渠となり川の形態を為していない。この付近が最も深い所と推定されています。

更に、都川沿に進むと左は低湿地、右は亥鼻台となり、都川と支川都川との合流地になっています。池の端と言われる小路は、都町五叉路の付近が東南端で、青葉の森通りに沿って北に向かいますと、都小学校のある台地に突き当たるので、池の端は北に向かいます。此処に都小学校と延命寺のある都町台地との間に谷地が確認され、この辺には弥生時代の遺跡（住宅地）も発掘はれています。又、最近まで延命寺の東側に小さな池もありました。この延命寺や諏訪

神社がある都町台地は西にある、知事公舎のある台地まで伸びています。此の台地の下は北に台地を背負い、近年には農家が並び、南は低湿地であり豊かな水田が造成されていました。

千葉常重は大治元年（１１２６）上総の大椎（おおじ・今の土気）からここに移住し、池や低湿地を干拓し、農地の造成に努めたとも言われます。昭和の第二次大戦で千葉市の大空襲では旧市街地に大きな被害が出て東本町や、鶴沢待ちには大漁の市営住宅が建設された後、戦後は急速に宅地化が進み現在の市街地となりました。現在の鶴沢小学校は昭和３２年開校と言われています。それまでは、千葉県立農業試験場として試験田でありました。

次に池の北側には佐倉街道と言われる国道５１号線がありますが、この道は低地にあり「池田の池」との関係が定かではありません。ただこの道の途中に中溝川が今でも小河川として残っておりこの水源は桜木町の南の台地とされていますが、現在は住宅化が進み水源林が無い為、流水がほとんど無い状態です。

その先北側から葭川という川が流入しています。この川は若葉区愛生町付近を源流として、千葉市立動物公園の西側を経て、現在の千葉市民会館の前を通って、古代には「池田の池」と合流して、むしろ、この川が江戸湾に流入する本流であると言われています。まだまた研究の余地が沢山残っているようです。

佐倉街道の道場バス停から南に入り、まさに池の畔の名残になる小路があります。此処には「ちびっこ広場」という公園が残っています。此処は地質調査のため、試掘された所でもあり、湿地帯として住宅に剥かないと言うことから公園になっています。

この小路をたどっていくと本町小学校の裏門の前に出ます。更に、現在は小路は内ですが、小学校の中を通って、都川の亀岡橋まで続きます。もちろんこの古道が古代の池之端とは断言できませんが、かなり雰囲気のある場所です。皆さん、これからも勉強の対象として、研究して見てください。

会員　高野利太郎